



消防団だより

第 6 号

発 行
富 士 市 消 防 団

富士市永田町1丁目100番地
電話 (0545) 51-0123
内線 (3333)
FAX (0545) 53-4633

“自分たちの街は自分たちで守る”

広報委員会では、自分達で取材した記事を掲載したいと考え、富士市のトップである富士市長に、消防団についてどのような考えをもっているのか聞いてみました。

○委員会―消防団に対する考え方を聞かせ下さい。

○市長―富士市の消防団は、団員八百余名のパワーと装備の面、訓練にもしっかり取り組み、質・量とも他市に比べ抜群だと思えます。火災のない安全な街作りを目指して、これからは訓練だけではなく、予防消防に徹することが一番大事だと思えます。全市に満遍なく二十六ヶ分団が配置され消防力が偏ることなく、非常に良いと思います。

昨年一月十七日に発生した阪神淡路大震災では、初動態勢が何かと問題になりましたが、富士市の場合、非常に良く取れているというのが、現状だと思います。これは、装備とか隊員が多いと言うことだけではなく、指揮命令系統がよくとれていることだと思います。消防団長以下、階級別に色々な役割が分担してあります。それらの組織編成がしっ



市長インタビュー 消防団広報紙編集委員会

かりしているということが、指揮命令系統に従って態勢が取れることだと思います。

地震などの災害が発生しては困る訳ですが、万一発生した場合は、県警や自衛隊の力を借りる事になります。ですが、大変時間がかかります。そこで、すぐ、その地域で活動できる消



防団や自主防が一体となり、寝たきり老人や障害のある方や一人暮らしの老人等いわゆる災害弱者を救出・救助することが大切になります。

これからは、火災が発生したから出動するような火災だけの消防団ではなく、災害にも頑張って活躍してくれる消防団になってくれることを市民は願っていると思います。

今後は、消防団にも災害に対する資器材、救命救助のための工具類を

県の指導に従って導入して行きたいと思えますので、それらを使用して、実際の建物を壊して撤去するなどの実践的な訓練を、訓練のメニューに取り入れることをお願いします。

○委員会―今、消防団では、若い団員を確保するのに苦慮しているのですが……。

○市長―昔でしたら、若い人は消防団に入団して、鍛えられて初めて地域社会の中心として活躍できたのですが、現在は個人を大切にしている時代なので、強く要請して無理に入れようという事はできないのですが、阪神淡路大震災以降、ボランティアに興味を持つ人が増えていると思います。地域のボランティアとして、何かをやるうとしたとき、やはり消防団が一番身近なボランティアであり、社会貢献ではないでしょうか。

これからは、誰もが何かその地域社会に対して貢献するという考えを持たないと、地域社会が構成できないかなと思いますので、私達も大いにPRしますが、皆さんも頑張ってください。

いつも魅力ある組織であるためには、誰でも中に入って色々な意見を言ったり、活動できる雰囲気大切だと思えます。また、もう一方では、長い間のキャリアを生かした後輩への指導も重要であり、古い人と新しい人が本當にうまく組織の中をかみあって、その伝統を継いで行くことが大事だと思えます。

○委員会―女性消防団員は必要だと思えますか。

○市長―女性のきめこまやかさを、災害活動に結び付けて多面的な消防業務が広がったら、それも一つの方法だと思えます。

それから、活動だけではなく、日常的に各分団や方面隊で横のコミュニケーションが取れていますか。

○委員会―三年に一度、方面隊ごとに家族慰安を実施しています。また、有志ではゴルフコンペやソフトボール、バーベキューなどは家族も含めて楽しんでいきます。消防まつりは団員だけでなく家族にも手伝わってもらい、楽しく行っています。それから、まだまだ消防自動車が進んでいない道路や、山間部等水利の悪い場所が見掛けられますので、整備をお願いしたいと思います。

○市長―道路も大分整備されてきましたが、支障をきたす場所やこの河川は水を流しておいたほうが良いとか、意見や参考になることがありましたらドンドン出して下さい。

○委員会―住宅防火診断時に空き家の軒数を調べたのですが、多くて驚きました。他人に侵入されやすいし、放火の原因にもなりますので、何かのにおきに注意を促して頂きたいと思えます。

○市長―そうですね。放火を誘発することが考えられますね。各地区の家屋の状態がどうなっているのか、連合町内会の方にもお願いしておきます。また、場所や状況も調べてみます。

○委員会―本日はお忙しいところ時間を頂きありがとうございました。

○市長―皆さんが大変良くやってくれているので、私どもも安心して生活ができます。これからも、弱者の方々などを守って頑張ってください。

取材者
大塚・鈴木(書記)・芦沢(進行)
青柳(写真)・長尾・瀧沢(編集)
諸星副団長(オブザーバー)

新調された 消防団旗

平成八年消防出初式では新調された消防団旗が披露されました。

この消防団旗は、

故 元消防団長 加藤重夫 様

故 元消防団長 外山義一 様

故 前消防団長 宮崎 武 様

から寄贈されたものです。

ところで、この消防団旗の白く染め抜かれた消防団徽章に桜の花を採り用いたのは、桜の花が日本の象徴であり、郷土愛護の精神を表したものであるとともに、桜の花のようにいさぎよしという心意気を表したものであるともいわれています。

さらに、桜の花の中にテトラポットを下から見たようなものを配していますが、これについては、次の三つの説があります。

まず第一の説は、消防団発足当時ドイツのベンツ社から輸入した車についていた印をとり入れたものであるとも言われています。しかしながら、そのマークが商標なのか、ドイツの消防のマークなのか不明です。

第二の説は、当時消防団が使用していた破壊消防の器具である「刺又(さすまた)」を形どったものであるとも言われています。

第三の説は、纏を上から見た形を形どったものであるとも言われています。

しかし、この三説とも必ずしも明らかではありません。

新 団 旗



消防団の一員として

第八分団 班長 山下 和 嘉 夫

「平成七年四月一日、班長に任命する。」よし、VIP待遇だ。などと勝手に思っていました。いざ蓋を開けてみると会議だ、訓練だ、催し物だと家をあけることの多さにびっくりです。

サラリーマンである私にとって、団員の時は、「強制ではないよ」の言葉を素直に信じて、比較的消防団活動に積極的ではありませんでした。いままでを振り返ってみると、消防団活動に参加した私のまわりには常に班長以上の人がいました。

諸先輩の皆さん達から受け継いだ真心を素直な気持ちで受け入れ、私も頑張ろうと決意を新たにしています。消火活動には、たくさんの危険が潜んでいます。特に夜間の活動では、ホースを延ばそうとして側溝に落ち

てしまったことや、よじれたホースに付着していたガラス片で手を切ってしまったことなど、いずれも大事には至らずに済みましたが、一寸した気の緩みが事故につながります。

これは、日常生活や職場においても同様なのですが、我々消防団員は一般の住民に比べると危険に遭遇する機会は多くなります。

しかし、普段の訓練や統制のとれた団体行動がこれらの危険から、団員一人一人を守っているのだと思います。

最後に、私は消防団員である事を認識して、また、誇りをもって火災やその他の災害による被害を最小限度にとどめるよう努力するとともに、事故のないように消防団活動を行って行きたいと思えます。

入団して六年

第五分団 団員 長 田 秋 彦

入団して早いもので六年がたちました。

入団当初は、誰もがそうだったろうと思いますが、何も分からなく、只々辛い観念しかありませんでした。

訓練大会、火災予防運動、火災期特別警備等色々な行事も、五年が過ぎた頃、ようやく慣れてきました。

初めて訓練大会の練習を経験した時は、ほんとうに大変でした。

しかし、ソフトボール大会や、消防まつり、家族慰安会、分団での研修旅行やゴルフコンペ等楽しい行事も数多くあり、いつのまにか第五分

団に溶け込んでいました。

この六年の間には、人員も変わり、又、私の後輩団員も九人となり分団内が若返りをしています。

訓練大会の経験をまだ二回しか持たない半人前の私ですが、分団長以下諸先輩方の指導を受け、火災出勤はもちろん、参加できる限りの消防団活動に積極的に取り組んで行きたいと考えています。

また、地域の人達や家族とのコミュニケーションを大切に、有意義な消防団活動となるよう努力して行きたいと思えます。

消防団に入団して

第二十四分団 団員 植 松 明 久

入団したきっかけは、会社の先輩・同僚が数多く在職しており、強く勧誘されたのがきっかけでした。

「まさか、自分が消防団に入団するとは」そんな気持ちで、入団一ヶ月の頃の本音でした。

私は、消防団の活動がほとんど分からず、ただ、火事の際に消火に行けばよいのだろうと思っていました。

しかし、実際に消防団に入団して分かったことは、色々な行事や活動があるということでした。入団してまず最初に訓練大会を経

験しました。私が練習の手伝いしていた頃はもう大会が間近で、選手の皆様は、かなり気合いが入っていました。もし、自分が選手であったらどこまでできるのだろうと、練習を見学しながら、ふと考えてしまいました。

これからも、消防まつり、冬の火災期特別警備等様々な行事・活動が待ち受けています。せっかく消防団に入団したので、これを機会に少しでも地域に貢献して行きたいと考えています。

おじいさんは消防団員

第二十六分団 家族 高橋 蓉子

父は消防団員である。引越してきた時に誘われたらしいのだけれど、消防団の仕事があれほど大変なものであるということは、思いもしなかったらしい。

普段は、一ヶ月に一度位の定例会なのだが、訓練大会が近付くと何のその！一週間に一回から二回、しかもそれが一ヶ月から二ヶ月も続くのだ。

そして、冬になると「火の用心カンカン」と巡回するのがこれまた多い。

母は、「最初と言っている事が違うわよね」と、ことあるごとに文句を言う。そのかたわらでは妹も「うん。うん。」と同意を示す。

私は、まあ、うーん、何とも…入団したからにはしょうがないし、もうそれが普通になっているし…と、心の中で自分と会話をしている。

一方父は、そんな母と妹に、「しよがないだろう。」と言って済ませ消防団の詰所に出かけてしまう。

これも、この地へ引っ越してきてた運命っていうものかなあとも時々家族の会話を聞きながら思います。でも、やっぱり、夜など女三人だけだとさびしい。

もし、父がいない時地震が発生したら…などと考えてしまうこともある。夜は、家族で過ごすのが良いと思う。

ところで、消防団の仕事についてだけど、先にも言ったとおり色々な

こともある。火事はないのが一番だ。でも、火事が無ければ消防署の人は仕事が無くなるかも…でも消防団は別に良いかなと、ふと思った。

とにかく消防団はつらいらしい。けっこう、父は楽しそうにやっている事もあるけど。

私にとって、父が消防団に入ったことでプラスになったのは、消防の仕事の色々知ったことと消防まつりの時の絵描きである。次回も描きたいと思う。

父にはまだまだ、そうだな、あと十年位は消防団員でがんばってほしい。

消防まつりに参加して

第十八分団 家族 山本喜栄子

十一月十二日、快晴の日曜日に大変盛大に消防まつりが開催された。各分団は日頃の一致団結を物語るそれぞれの趣向を凝らした模擬店を並べ多くの市民でにぎわった。

普段は縁の下の力持ち的存在の消防団です。

団員の家族としては、なんと種々な雑多な活動のあることか、と感じているのですが、地域社会の中ではあまり理解されていないところだと思えます。

年初めの出初式や消防まつりは活動のほんの一端に過ぎませんが、たくさんの市民が参加してくれる絶好のチャンスです。

特に第十八分団としては、団員不足とか。消防団活動への理解・協力を得ら



消防まつりに参加して

れる良い機会だと思えます。消防団員家族はもとより、多くの市民がたのしみながら防火意識の高揚をはかれる消防まつりとして来年も期待したいと思えます。

消防まつりに参加して

第二十五分団 家族 井出とみ子

十一月十二日、消防まつりが市役所駐車場で盛大に開催され、各分団工夫を凝らした楽しいお店が会場に並びました。第二十五分団は、子供相手の輪投げと、私達が前日作ったレモンケーキのお店です。

レモンケーキは、昨年に広見公民館で先生に指導していただき販売したところ大盛況でした。

「来年も頑張ろうね！」そんな気持ちから今年の消防まつりに向けて、毎月第三土曜日の夜に料理教室を開き、熱心な先生のお陰で、色々な種類のお菓子作りも挑戦しました。

今年はお菓子作りにも慣れ、昨年より一層美味しそうなレモンケーキ千個

が焼き上がりました。「いらっしゃいませ。レモンケーキはいかがですか。」私達の声に誘われて足を止めて下さった方や目が合った方には笑顔で「私達の作ったレモンケーキです。お土産にいかがですか。」

賑やかな雰囲気からの中で少々の押し売りも有りましたが、お昼前には二百袋完売致しました。

ホッとすると同時に買っていたいたお客様に対して感謝の気持ちと、団員の皆様方の団結力や熱心さに感動いたしました。

「また、来年も頑張ろうね！」そんな余韻を残して!!

「息子の夢」

第六分団 家族 渡辺千与美

初夏のある日、息子の通っている幼稚園で、七夕祭りがありました。子供達は、各々短冊に将来自分が何になりたいか書いてありました。当然、気になるのは我が子です。

息子は、「大きくなったら消防士になりたい。」と書いてありました。どうして？と私が尋ねると、「消防車に乗れるから」と、とても子供らしい答えが返ってきました。

そして、もう一つは「敬礼がカッコイイから。」出初式などの色々な場面で敬礼を見てすぐ印象に残っているからだと思います。

「ぼくも大きくなったら消防に入れるかな？」

「うん！きつと入れるよ」と言うので、ニコニコしながらも満足そうでした。

消防団活動も一年の間には色々ありますが、子供達が一番楽しみにしているのが家族慰安旅行と消防まつりです。

これからも、地域住民の生命と財産を守るため一生懸命消防団活動に励んで下さい。家族も応援しています。

県大会出場

第三分団 団員 勝亦和利

私は、平成七年五月二十八日富士市消防団訓練大会に於いて、第三分団より『小型ポンプ操法』の指揮者として出場いたしました。大会までの約一年間を通して訓練を実施してきました。

当日は、特有の雰囲気の中で、今までの訓練の成果を十分発揮できるような努力し、操法終了の「わかれ」の号令をかけた時に、指揮者としての責任を果たしホッとしました。

結果発表で第三分団が優勝と知り、私個人としては思いも寄らなかった事で驚きと喜びが入り混ったことを

記憶しています。

その後、支部大会に至るまでの約一ヶ月は、団長をはじめ関係各位の方々に激励され、また、分団長や第三分団の方々には昼夜にわたる応援をいただき感謝しています。

熱意ある指導員によるマンツーマンの厳しい指導に最初について行けるか不安でしたが、隊員は、指導員を信頼して訓練に励むことができました。

七月二日、支部大会が芝川町総合運動場で、二市一町の代表隊により開催され、我が隊も出場しました。

隊員と指導員、そして様々な角度から応援下さった皆様とのチームワークの勝利でしょうか。支部大会に於いても優勝することができました。

一年以上の長い間、何回となく家を留守にして訓練した隊員の努力には、私自身も頭の下がる思いです。この優勝で一番嬉しく、また、報われたのは、隊員の家族ではないかと思えます。

八月四日、猛烈な熱さの中で県大会が県立草薙総合運動場で行われ、我が第三分団は二番目に操法を行いました。県内十一支部代表の操法を目のあたりにして、そのレベルの高さに驚きましたが、富士市の操法の正確さも実感しました。

賞は逸したが、県大会出場という貴重な経験を、これからの消防団活動に生かして行きたいと思えます。

全員で声を掛け合い訓練を続けていこううちに、皆の気持ちが一つになり大会当日を迎えることとなりました。

大会は、緊張の中で無事終了し、選手全員充実感が顔にあふれていました。残念ながら入賞はできませんでしたが、皆は満足しています。

今回の訓練大会に出場して、分団の人達が仕事等様々な事情があるなか、都合をつけて応援に駆け付けてくれたことが出場選手として、とても心強く感じられ有り難く思いました。

これからは、あの時の気持ちを忘れずにより一層積極的に、消防団活動に参加して行きたいと思えます。

優勝バッチを手に入れた

第十七分団 団員 丹羽貞裕

私は平成七年の春に消防団に入団しました。きっかけは、町内の人達に勧められ断り切れずに入団したのが本音です。

入団してまもなく、規律訓練が開かれ、一週間のうち三日ぐらいは訓練をしました。

家では家族が毎日のように出掛け私をあきれ顔で見っていました。しかし、その訓練のお陰で私達第五方面隊は、富士市訓練大会の訓練礼式の部で見事に優勝し、小型ポンプ操法の部では第十七分団が準優勝でした。

私はなんと入団して三ヶ月足らず

で、優勝バッチを手に入れてしまったのです。

富士支部大会では惜しくも芝川町消防団に敗れてしまったのですが、入団して四ヶ月余り、毎日のように訓練を行い消防団の大変さをつくづく実感しました。

現在は火災特別警備も始まり、出初式にも参加しました。正月そうそう消防団活動で家族に迷惑をかけるのですが、家族もだれかがやらなくてはいけない事だと、理解してくれています。そんな家族のためにも今まで以上に頑張ろうと思えます。

訓練指導員に任命されて

第二十一分団 部長 鈴木克己

私が消防団に入団して十七年が経ちました。

そもそも若い時から団体活動の嫌いな私が、消防団の一員として在籍できたこと自体が不思議な思いがします。

それほど消防団の居心地が良く、仲間としての結束の固さが家族同志の応援を背に頑張れたと思います。しかし、このたび規律指導員として分団長に頑張ってくれと言われ、家に帰って妻に相談するとあっさり反対されました。

自営業の場合時間が自由になるよう自由にならず、何かと訓練時間に間に合わない事が多いのに指導員が勤まるかとも言われました。

しかし、日頃の消防団活動を見ている妻を説得するのに時間はかかりませんでした。

団員の規律を指導する立場を引き受けた以上は、分団の名譽のために、初めて白い帽子をかぶって身がひきしまった時の感慨を忘れないよう毎日を頑張りたいと思えます。

訓練大会に出場して

第二十分団 班長 鈴木真好

消防団に入団して早いもので、七年が経ちました。今までは地域の役員等が重なり、あまり消防団活動に参加できず、二十分団の皆様には、迷惑のかけっぱなしでした。

今年、小型ポンプ操法に出場することになりました。選手は全員が初参加で、右も左も分からないような状況で、他の人と交替してもらいたいような気持ちでした。

最初の全体練習の時、他の分団の訓練を見学して、一回顔を合わせませんでした。格が違いすぎる。これは、のんびり構えている場合ではないと、選手は都合を付け合



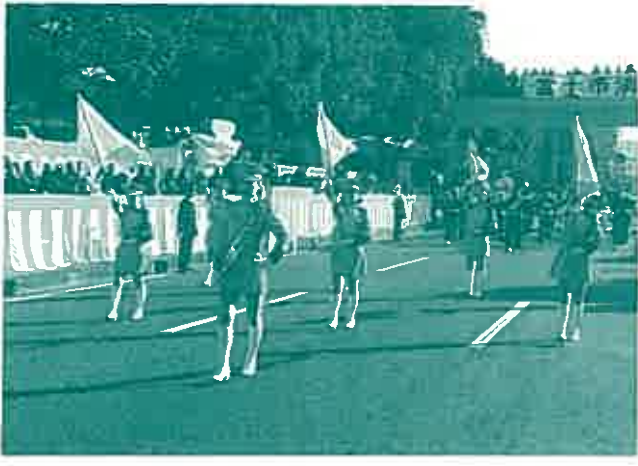
『消防の華』 カラーガード隊

カラーガード隊長 岩田実穂

白いブーツに燃え上がる炎のよう
な真っ赤なユニフォームというコス
チュームで、盛大なご声援を下さる
皆様の前に立つ私達、富士市カラー
ガード隊、フジ・レッド・フェアリ
ーは、現在、隊員九名。少し気取
った澄まし顔で、目線はずっとずつ
と遠く。耳のあたりを通り抜けてい
く風が、気持ちをリラックスさせま
す。

いつもは、友達と大声で笑ったり
している自分が、全くの別人に变身
してしまうことが、とても不思議で、
いつからか快感になってしまいま
した。

昭和六十一年に市制二十周年記念
事業として、カラーガード隊が発足
され、毎年富士まつり音楽パレード
・消防まつり・消防出初式等に参加
させていただいています。
二年前、東京ドームで行われた



「自治体消防四十五周年記念大会」
に参加できたことは、過去最高の出
来事だったのではないでしょうか。

テレビでしか見たことの無かった
東京ドーム。

目に染みるほど鮮やかなグリーン
に一步足を踏み込んだ感触が、今で
も忘れずに残っています。

貴重な体験を大切に、いつまで
も消防の「華」でありたいと思っ
ています。

研修旅行

北海道を旅して

第十二分団 班長 藤田道信

平成七年四月、団員の研修と親睦
を深める旅行が企画され、北海道へ
の研修旅行となった。北海道の大自
然と開拓の歴史、アイヌ民族の教え
や生活に思いを馳せ徐々に消化し
ながら、自然の幸を目一杯胃袋に詰
め込んで旅行は続いた。そしてやは
り、その行動や話題はこの旅行の目
的でもある、地震や災害への意識を
含んだものであった。

阪神大震災と北海道地方の地震災
害の違いを聞くことができた。

北海道では、降り積もる雪の重さ
への対応のためにトタン屋根が多く
また、雪の排除障害となるため、塀
や石垣を作る慣習があまりないこと
などが、被害の縮小となった。阪神
大震災での被害は、瓦屋根や古い木

訓練指導員になって

第十七分団 班長 大澤利章

平成七年四月に指導員となって初
めの会議のことでした。会場に入
ると、そこに居る人の全てが見ず知
らずの人に見えた事を今でもはっき
り覚えています。

やがて、時間の経過とともに見慣
れた顔が見え始めてきました。

相当緊張していた事を思い出しま
す。

「東海地震」発生の心配が前々か
ら叫ばれているおり、平成七年一月

十七日未明の阪神大震災でした。

あの惨劇を眼のあたりにしただけ
に、私達消防団の任務の重大さを痛
感していた時の今回の訓練指導員の
任命だっただけに、気持ちの高ぶり
がそうさせたのだと思います。

指導員としての活動はまだ一年足
らずなのですが、訓練日には、勤務
終了後夕食もそこそこに、いつも集
合時間ぎりぎりに駆け付け、がむしゃ
らに時間だけが過ぎ去ったように感
じています。

日常の訓練は、ややもすれば惰性
に流されやすいと思われるだけに、
「何のための訓練か？」ということ
を常に念頭におき、いざという時、
日ごろの訓練が生かされるように他
の訓練指導員と力を合わせて行きた
いと思います。

四月に訓練指導員用の真白い帽子
と脚絆、そして笛を手渡された時の
あの新鮮なピリッとした気持ちと、
自分自身に誓った「悔いの残らぬよ
う、精一杯頑張ろう！」を、いつも
忘れずに居たいと思います。

今まで触れ合うこともなかった他
地域の団員との新たな交流も生ま
れ、訓練指導員になって本当に良か
ったと思います。

今後とも末永く、皆様からの御指
導、ご鞭撻をいただきたくよろしく
お願い致します。

十五分団の伝統を守る

第十五分団 団員 鈴木秀夫

私がこの原稿を書くことになった
のは、年末で詰所を大そうじした後
の分団全体会議の中で決まりました。
この日は、年に一度の大そうじに
もかわらず、人数が少なく例年に
ない寂しい大そうじとなりました。

その後の全体会議も、議題の一つ
に団員の定員割れという深刻な問題
があったからでしょうか、静かに進
行されました。

そんな雰囲気の中である一人から、
「団員の結婚のような、何か楽しい
話はないかなあ。」などという声
が上がりました。

私達の第十五分団は本来がとても
明るい集団です。

この後も以前の団員数が定員をオ
ーバーしていた頃の話や、慰労会で
のエピソード等で盛り上がりました。
ここ数年間は、団員の活性化に伴
う定年制など、世代交代の激しかっ
た時期でもありました。

定年の問題は、どこの分団でも頭
が痛いのではないのでしょうか。

幸い私をはじめ、十五分団の若い
団員は、厳しい中にも楽しく消防団
活動ができます。これも先輩達が築
いてきた伝統の一つだと思います。

今後、豪快な先輩たちに育てら
れ我々若い団員は、凶々しさと、の
びのびとした性格で、第十五分団の
伝統を受け継いで行こうと思います。

我が分団

第二分団 分団長 町田勝利

私が消防団第二分団に入団して、はや三十年近くになります。

入団当時の第二分団区域内は、田園の中に各町内が点在と云った感じでしたが、現在では区画整理の完成と共に建物が増え、昔の面影は見られません。

それにつれて当分団も三度の移転で、平成元年三月に現在地に立派な詰所が完成し、富士市の安全の一端を担って防火防災活動に又、訓練に励んでおります。

しかし、団員もサラリーマン化が進み、若者の社会公共奉仕や自衛意識の低下からの団員確保が最も懸念されているところです。

そんな中、昨年消防団活性化の一環として消防団PRと市民の防火思想の普及を目的に団員から分団詰所のシャッターへ図案描写の発案がありました。早速、吉原高等学校美術部へ依頼し、美術部の佐藤教諭はじめ部員の皆様のご協力により、平成七年の春休みに子供達にも目をひく



防火のイラストが描かれました。

これを機に私も団員は、諸先輩や地域の皆様のご理解ご協力をいただきながら、尚いっそう防火防災に努めてまいりたいと、気持ちを新たにしております。

入団四年半を振り返って

第十六分団 団員 吉川高秀

早いもので、消防団に入団して四年半を迎え、充実した日々が続いています。また、安心した消防団活動ができるのも、日ごろの家族の協力の賜物だと感謝しております。

入団の翌年に規律訓練の要員となり、第五方面隊の他分団の方々と厳しい中にも楽しく連日の訓練ができました。その甲斐あって、富士市の訓練大

夜警

第二十六分団 団員 斉藤勝正

私が消防団に入団してすでに四年が過ぎた。毎年のことではあるが、この時季になると天候が気掛かりとなる。特に風のことだ。

良く晴れた風のない日中なら比較的ゆったりとした気持ちで過ごせるのだが、夜ともなれば寒さも身に染みる。まして、強い風の吹く夜はなおさらのことだ。

そんな夜に私は出かけて行く。今晩から明朝にかけて万一の火災などの災害に備えて待機する「火災期特別警備」である。

分団詰所には気心の知れた先輩や仲間がいて、ポンプ車は今晚の巡回に備えてエンジンがかけていられた。簡単な挨拶だけで失礼する日もあるが、気持ちが統一されているからそれで十分なのだ。

先日、近所の方から「毎晩ご苦労様。」と、頭を下げられた。会に優勝し、今年度の訓練大会に於いても前回の優勝隊なので出場する事ができ、幸運にも富士支部大会へのキップを手にできました。県の訓練指導員、方面隊の訓練指導員の方々には大変ご苦労をおかけ致しましたが、お陰様で満足な結果を得ることができました。

これから、冬季に向かって火災期特別警備等厳しい活動が控えています。消防団員としての自覚と責任をもち、これからも消防団活動に頑張りたいと思います。

その人は、父と同年代の方なので、正直なところ驚いてしまった。

さらに、社会奉仕であるとか、地域貢献などとお言葉をいただきとても恐縮してしまつた。

と同時に私達の活動をそんな風に見て下さる方もいるのかと思うと、嬉しくもあり大きな責任も感じた。

「さあ、出発しよう。きょうは風が強いから十分注意しような。」班長の声がある。私達は身支度を整えてポンプ車に乗り込む。昨日より大きな責任を感じて。

ガンバレラッパ隊員

第二十三分団 班長 斉藤保信 (ラッパ隊副長)

消防団にラッパ隊が発足してから早くも八年余りとなります。

私は、発足時より入隊した一人です。発足当時は全員が、音さえ出ないような状態でした。

毎週末曜日に練習しておりますが、なかなか上進いたしません。

とくに私の場合、他の隊員より年長ということもあり、ラッパを吹くための口の筋肉、肺活量の不足等があり、それを補うため喫煙をやめて頑張りました。

仕事が終わった後での練習は、なかなか大変です。しかし、なんとか一曲吹けるようになったときの感激

団員募集

今、若い人の力を消防団は求めています。
消防団に入団するには、地域の消防団員または町内会長、区長さんに申し出て下さい。

原稿募集

消防団広報紙編集委員会では次回の原稿を募集しています。
○枚数 四百字詰原稿用紙一枚程度
○問合せ (消防団広報紙編集委員会)
又は、消防本部管理課
○締切り 十月末日

は、言葉に現せないものがあり、そしてまた「やるぞ」という気持ちになり、次の曲にチャレンジします。そんなおり、自衛隊の観閲式を見学する機会があり、ラッパ隊の素晴らしいさに感激しました。

ラッパの演奏はもちろん、それに伴う規律の素晴らしい、この二つを合わせ持ち初めて立派なラッパ隊となることがわかりました。

私達ラッパ隊も今以上に頑張っレベルアップして行きますので、関係する皆様のご協力をお願いいたします。